

無痛分娩の説明

この説明文書は医師からの説明を補い無痛分娩の理解を深めるためのものです。よくお読みになり、無痛分娩を選択するかどうかご検討ください。メリット・デメリットを十分に理解して納得されたうえで、同意書に自筆署名をして頂きますので、わかりにくい言葉や内容がありましたら、遠慮なく医師・看護師までお尋ねください。

1、無痛分娩（硬膜外麻酔）について

無痛分娩とは、麻酔（硬膜外麻酔）を用いて分娩の際の痛みを軽くすることです。ただし、痛みを完全に取除くのではなく、産痛（分娩時の痛み）を緩和させる方法であり、薬剤の効き方には個人差があります。

硬膜外麻酔は、分娩時の鎮痛法として最も一般的です。鎮痛効果が高く母児に対する副作用が他の方法に比べて少なく、痛みによる心身のストレスや分娩の負担を軽減することができます。

無痛分娩は、妊婦さん本人の希望があるというのが原則となります。ただし当院では後述する疾患やリスクを持つ場合、無痛分娩の対象外とさせて頂いています。ご了承ください。

2、当院における無痛分娩の麻酔方法

当院は陣痛誘発を使用した計画無痛分娩で、麻酔は硬膜外麻酔を使用します。（分娩の状況によっては脊椎麻酔を使用することがあります）

スケジュールに則って入院して頂き、陣痛が来る前に背骨と背骨の隙間から細くて柔らかいチューブを挿入し、硬膜外腔という部位に固定します。

分娩の進行がみられ、陣痛が増強した時点で麻酔を開始します。あらかじめ投与量が設定されたポンプを使用しますが、麻酔の効果をみながら必要に応じて追加投与をしたり、減量したり調節します。

3、当院での無痛分娩の安全体制

厚生労働省が推奨する『「無痛分娩の安全な提供体制の構築に関する提言」に基づく自主点検表』にしたがい、安全な無痛分娩を提供しています。胎児心拍モニター・自動血圧測定器を用いて母児の様子をフルモニタリングし、緊急時に必要な対応が出来るようにしています。

母児の安全を最優先にするため、以下の疾患やリスクがある妊婦さんは無痛分娩が出来ません。

- 血液検査にて凝固機能の異常がある場合、抗凝固剤使用中の場合。
- 重症妊娠高血圧症候群、局所麻酔薬アレルギー、感染症、神経疾患、脊椎疾患、抗凝固薬服用中
- 重度肥満（BMI>30）、体重コントロール不良の場合
- 早産（無痛分娩を予定して検査や説明を受けていた場合でも不可）、子宮内胎児発育遅延
- 日本語での意思疎通が難しい方（痛みや副作用の細やかな確認が難しいため）※通訳出来る方からの説明において内容を正しく理解し同意出来る方は申し出ください

- その他、医師が危険と判断した場合

内服薬・サプリメントなど早期に中止する必要がある場合もありますので、必ず医師にご相談ください。

4、無痛分娩のスケジュール

妊婦健診で経過を見ながら 36 週以降に子宮頸管の熟化などを考慮して入院日を決定します。

原則、計画無痛分娩になるため、入院日前に陣痛・破水がきた場合は自然分娩になることをご了承ください。

① 前日 13:00 入院

・外来で医師の診察を受けた後、病棟に上がり病棟内オリエンテーションを受けて頂きます。この時に、母子手帳・診察券・無痛分娩の同意書・緊急帝王切開の同意書を提出してください。

・入院後は硬膜外チューブ挿入されるまで原則禁食とし、水分摂取のみ可能です。(ヴィダインゼリー、OS-1、ポカリスエット、お茶、水など)

②硬膜外チューブの挿入

・15 時～16 時頃を目安に分娩室に移動し、点滴を入れて、胎児心拍モニタリングを開始します。同時に血圧計・酸素飽和濃度・心電図をつけて母体の状態を観察します。

・ベッドに横向きに寝て、膝を抱えて丸くなります。麻酔のための消毒をし、腰の辺りから硬膜外腔に細くて柔らかい管を入れ、テストの麻酔薬を注入します。管を入れる前は、皮膚に痛み止めの注射をします。

・テープでしっかり固定し、母体の血圧や赤ちゃんの心音に異常が見られないことを確認してから、自室へ戻ります。

③当日の流れ

・前夜まで飲食可能です。当日朝より食事は出来ません。飲むゼリー食品含め水分摂取はしっかり行ってください。

・7 時 30 分頃に分娩室に移動してもらい、胎児モニタリングを行い、赤ちゃんの状態に問題がなければ 8 時 30 分を目安に分娩誘発を開始します。

・子宮口が 3-4cm 前後開大し、生理痛より少し強いくらいの痛みを感じ始めたこと、麻酔薬使用を開始します。基本的には産婦さんの自覚により希望を伺いますので、いつでもご相談ください。

・半坐位・側臥位中心で過ごして頂けますが、背中中のチューブを引っ張らないよう注意してください。

・低血圧を早期発見・治療するために定期的に血圧測定を行い、赤ちゃんの心音低下の早期発見・対応のため胎児心拍モニタリングは分娩終了まで継続させて頂きます。

分娩中は麻酔効果の確認等のために病室を伺うことが多いです。また麻酔追加する際にも追加後の観察含め訪室致します

・トイレまで歩くことが出来ないので、3 時間毎を目安に導尿を行います。

・分娩誘発を行っても分娩に至らない場合、安全最優先のため 16 時頃に方針の相談を行います。

・分娩・縫合が終了したら、硬膜外麻酔鎮痛を終了し、固定していた管を抜きます。その後の鎮痛は内服薬で対応します。

・出血に問題がなく、しっかり歩行出来ることが確認できたら病室へ戻ります。それ以降の入院生活は、産後にお渡しするスケジュールの通りです。

・立ち会い分娩や分娩後の授乳は通常と同じように行えます。

5、無痛分娩の有効性と危険性（合併症、副作用等）

無痛分娩は、一般的な医療行為と同様にメリット、デメリットがあります。

①メリット

陣痛が緩和され、落ち着いて分娩に臨むことが可能になります。分娩による疲労が軽減され、産褥期の体力回復が早くなります。

②デメリット

1)一般的に起こり得る合併症

- ・足の感覚の麻痺：陣痛の痛みが和らぐと同時に、足の感覚が鈍くなったり、動かしにくくなります。
- ・血圧低下：血管の緊張が緩みやすくなるため、血圧が下がりすぎないように点滴を行います。
- ・発熱：38度以上の発熱をきたすことがあります。原因ははっきりしていませんが、感染による発熱でなければクーリングや補液などの対症療法を行います。
- ・かゆみ：麻酔を開始すると顔や手足、体幹などに皮膚のかゆみを感じることがあります。多くの場合、数時間で治ることが多いですが、薬などの治療がないためクーリングなどの対症療法を行います。
- ・排尿障害：無痛分娩中は尿意や排尿の神経も鈍くなるため、自力排尿が難しくなります。上記のように足の感覚が鈍く動かしにくくなるため、転倒防止も考慮して管を通して尿を出す処置をします。
- ・その他：嘔気・嘔吐など

2)重篤な合併症、偶発症（非常に稀ではありますが可能性があるもの）

- ・局所麻酔薬中毒：薬剤の血中濃度が高くなりすぎることがあります。耳鳴り・口のしびれなどの症状が出ます。重症になると意識障害、痙攣、不整脈、呼吸停止。心停止などが起こる場合があります。
- ・全脊髄麻酔：硬膜外麻酔の管が脊髄くも膜下腔にはいつてしまうことがあります。下肢の運動麻痺・呼吸停止・心不全などの症状が出ることもあり、意識が朦朧とすることがあります。
- ・上記を含んだ緊急時は、医師・助産師・看護師が迅速に対応致します。
- ・その他：子宮破裂のリスク増加、アナフィラキシー、髄膜炎、硬膜外血腫、硬膜外麻酔の挿入部位の出血や感染、神経障害など

3)分娩や赤ちゃんへの影響

- ・無痛分娩により、分娩時間が長くなることがあります。また、促進剤使用の増加や、鉗子分娩や吸引分娩が増加することが報告されています。
- ・**吸引**分娩によって会陰切開・裂傷が大きくなることもあり、傷の痛みが強くなる場合があります。そのような時は**鎮痛剤**の処方を行いますので、ご相談ください。
- ・無痛分娩を開始してすぐに、赤ちゃんの心拍が一時的に低下する場合があります。無痛分娩中は赤ちゃんの心拍を持続的にモニタリングし、緊急時は迅速に対応致します。

4)産後まで続くもの

- ・頭痛：硬膜穿刺後頭痛といい、針や管で硬膜が傷付いた場合に頭痛を引き起こすことがあります。通常 1 週間程度で自然に改善することが多いものです。起き上がると頭痛が酷くなり、横になると軽減するため、鎮痛剤や安静で様子を見ます。

- ・排尿障害：自力排尿が難しくなることがあります。時間ごとに定期的なトイレでの排尿を促しますが、必要時は導尿し、残尿の確認を行います。

- ・産後、足や殿部の感覚が鈍い感じ、足が動かしにくくなるなどの症状が出る場合があります。数日～1 ヶ月程度で軽快することが一般的です。

6、計画日程以外の分娩開始の対応について（重要）

原則、計画無痛分娩としています。そのため、入院予定日の前に陣痛がきたり破水が起こった場合は、無痛分娩が出来ないことをご了承ください。また、硬膜外チューブを挿入した前日夜間や、促進剤・硬膜外麻酔を中断した日の夜間に自然陣痛がきて分娩が進行した場合も、**無痛分娩が出来ないことがあります。**

母児の安全を最優先に考えての対応になりますので、それらをご理解のうえ無痛分娩をご検討ください。
※朝、麻酔担当医が来た時点で産まれていなかった場合は無痛分娩が再開出来る場合もあるので、当日のスタッフにご確認ください。

7、同意の撤回について

ご自身の希望により、同意した後（入院中や無痛分娩中であっても）、いつでもその同意を撤回することができます。予定していた入院のキャンセルも、同様に可能です。

8、質問の機会

ご不明な点や疑問点がありましたら、いつでもスタッフにご相談ください。

9、費用

無痛分娩の費用は、通常の分娩に加え 1 2 万円になります。詳しくは受付にご確認ください。

無痛分娩開始後のキャンセルは、費用が発生します。また、硬膜外チューブを挿入した後に麻酔を使用せず自然分娩に至った場合も、使用した医療資材分の費用が発生します。

10、アンケート

今後の分娩質向上の為にアンケートにお答えいただけると幸いです